

## 『こども食堂通信』NO.11

発行:公益社団法人北海道社会福祉士会 道央地区支部

### 子ども食堂訪問記⑬

#### 「子ども食堂・地域食堂」～八丁目プラザのっぼ（江別市野幌町 57-12）

令和になって初めて子ども食堂を訪問しました。

5月15日、今回は江別市野幌にある「子ども食堂・地域食堂」にお邪魔しました。

ここは北翔大学の教員が中心となり、大学のある江別市に感謝の気持ちを込めて誰でも集える居場所を作りたいと思い、一昨年の12月から始めました。

6時過ぎに到着しましたが、障がい児や高齢者(男性)、幼児の親子など、様々な人が利用していました。食事は野菜が多く、ボリューム満点。教員が札幌市の市場から売り物にならない野菜を当日、いただきに行くのと、地元の農家の方からもお米や野菜などの寄付がありとても助かっています。

美味しそうに食事をいただいています、食べ終わるとみなさん帰ってしまいます。子どもたちが遊ぶ場所があると食事を終えた後も賑やか過ごせますが、ここはボランティア(学生)の声がよく通っていました。

教員の方も、ゆっくりと遊んでもらえる場所がないのが残念ですが、北翔大学は、真願寺(お寺)でも「子ども・地域食堂」を行っています。こちらは、子どもたちが走りまわれるスペースがあり、たくさんの人たちが参加しています。のっぼは毎月第3水曜日、真願寺は不定期で水曜日に開催されています。

社会福祉士の資格を持つ教員に、「どのような子ども食堂・地域食堂を目指していますか」と聞くと、近所のみなさんがお互いに支えあえる地域を目指し、気軽に集える居場所を作りたい、そのためのお手伝いをしていきたいと抱負を語っていました。

#### 北海道社会福祉士会道央地区支部から

「なぜ、こども食堂を利用するのか？」今回の訪問の食堂のように居場所を求めて。また、低価格の食事を食べたくて、仲間と一緒に楽しい時間を過ごしたくて・色々な思い・理由で子ども食堂を利用しています。また、「子ども食堂を始めた理由」も様々です。

本年6月で道央地区支部の役員が改選されます。生活困難者の担当として、2年前から「子ども食堂の利用者の支援をしたい」という思いから、訪問を始めましたが、月1回程度の訪問しかできず、以前訪問した子ども食堂の状況はホームページで見ることくらいでした。札幌市以外の子ども食堂の訪問は今回が初めてで、まだ訪問していない食堂がたくさんあります。

たくさんの社会福祉士が仕事やボランティア活動していますが、子ども食堂を訪問すると、社会福祉士を知らないという方がまだ大勢いました。私たちの存在をもっと知ってもらい取り組みがとても大切だと痛感しました。社会や地域への参加は難しいかもしれませんが、子ども食堂に限らず、社会や地域への参加は私たち社会福祉士の必要性を公にアピールしていくことがとても大切だと思います。

みなさんも、ちょっと一人では・・・と不安があるときは、仲間を集って行動してみませんか。

是非、役員にも声かけ、相談していただきたい思います。

今後も必要の都度、皆様に情報をお伝えしていきたいと思います。

(里村としこ)